

【編集後記】

《21生》

さて、最後の懺悔の時間です（笑）。提出期限を守る、という約束を果たせずに、編集長としての役職を終えることに少々の悔いを感じるとともに、逆に、それでも良かったかな、と前向きに考えています。なぜなら、1年生が右も左も分からない中で、いくら遅れようとも、それぞれの感性を大事にしなが、最後まで責任を持って編集してくれたからです。

毎回しつこいメールや要望にも応えてくれ、そして、思った以上の原稿を持ってくる1年生に、今後の飛翔を託すことに何の不安があるでしょうか。飛翔と出会って2年半、これからは皆さんが新たな飛翔の歴史を紡いでいく番です。言葉の力を信じ、伝えることの醍醐味を感じながら、飛翔を続けていってもらえたらな、と思います。

最後に、記事の取りまとめを下さった事務の方々に改めて敬意を捧げるとともに、支えてくれた編集委員をはじめ、取材に応じて下さった皆様に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

林 田 啓 誉

研究室紹介のページを少しとレビューのページを担当しました。あまり関わることはできなかったのですが、レビューのページは前からやってみたかった内容なので、個人的には満足です。

まだ完成したものは見ていませんが、1年生の皆さんが頑張ってくれたのが嬉しかったです。

久 住 忠 彦

これを書いている今、私は東京にいます。インターンシップで同世代の同じ道を志す仲間と出会い、楽しんで研修に励んでいます。

今回の飛翔は、2年の編集委員が不在の中、かなりの部分を1年の編集委員に頑張ってもらいました。もっといろいろサポートしながら取材を進めていくつもりが、なんだかかなりバタバタとしてしまって、ちょっと申し訳なく思っています。同時に、積極的に動いて進めてくれたみんなに感謝しています。

取材活動を通じた出会いや経験は、大袈裟になるかもしれないけど、貴重な財産です。

大変なこともあったとは思いますが、今後も飛翔で個性を発揮し、面白い企画や記事を作ってくれたら嬉しいです。

平 野 詩 歩

《23生》

研究室紹介では原田先生に、本誌に一部しか載せられないことがとても惜まれるほど素晴らしいお話を聞かせていただきました。取材に協力していただきありがとうございました。

飯尾 優一郎

今回、編集に携わって今までにない体験をすることが出来ました！

特に文字起こし、という作業は大学生になって始めてやったことでした。録音した音声を聞き、それを文字に起こす途中で聞こえづらい部分があり結構大変な作業でしたがやり終えたあと、なんだか達成感があって楽しかったです。

稲田 雄之補

編集委員になって編集室が自分にとって居心地のよい場所になりました。行くと誰かがいるのがとても楽しくて、居心地が良くて会議もまともに進まない日もあったけど自分たちで企画を進める自由さはとても充実していました。

加藤 正暉

初めは全然やる気が無かったのですが、皆と編集室でいろんな作業をしているうちに、大変な部分もあったけどだんだん仕事に慣れてきて、すごく楽しかったです。

西道 涼

飛翔の編集に携わって、色々勉強になりました。大変な時期もありましたが、それを乗り越えられたことは貴重な経験になりました！サポートしてくださった先輩方、一緒に頑張った友人に感謝を。

高井 大輔

総科で勉強して社会へ出られた先輩や、自分の選択希望分野とは異なるプログラムの教授とお話が出来て、とても良い経験になりました。

あらためてこの総科という学部の幅広さや可能性を実感できたのでこれからの自分の学生生活のモチベーションもあがりました。

立川 茜

私の将来の目標には人に「伝える」ことが必要です。そのため飛翔を通して伝えることを実際に体験で来てよかったです。また、取材をする際に素晴らしい方達に出会えてお話をきけたことは今後の大きな財産になると思います。

— 知 念 礼 子 —

今回初めて取材というものを体験しました。インタビューの時の質問の方法や話の運び方が特に難しいと感じました。しかし、色々な人の様々な話を聞くことができ、とても楽しかったです。

— 西 峯 礼 子 —

わたしは直接取材に行くことはできなかったのですが、初めて記事にしたので新鮮でした。作業ひとつひとつ未知の世界だったので、勉強になりました。

いろんなことを考えてらっしゃる人がいて、それがシェアできるというか、その人その人の考えに触れられることは、とても興味深くて、そんな機会をこれからも持ち続けようと思います。

— 福 岡 奈 織 —

私は、今回飛翔の編集に携わって、最も楽しく感じたのは取材でした。何より自分が興味のある分野の先生から直接お話を伺えた事が良かったです。取材にご協力して下さった行動科学プログラムの先生が協力的で明るい方だったこともあり、普段授業を聞くだけでは知ることが出来なかったであろう先生の一面や、経験した事を聞けた事が楽しかったですし、ためになりました。編集においては、メンバーの時間の都合がなかなか合わず、皆で集まった作業が難しかった事が大変でした。こういった皆で作業するような場では、全員の都合を最初に確認して、それを皆がそれぞれ知っていることが重要だ、と学ぶ事が出来ました。一緒に作業をしてくれたメンバーの方、ありがとうございます。指導して下さった先輩方、ずるずる作業を進めていて本当にすみませんでした。今回の経験を大切にしていきたいと思います。ありがとうございます。

— 豊 岳 実 由 —

けっこう遊び感覚で作りました(笑)。言った事をパソコンに打つのはぎりぎりで、遅くまで残って打つのに泣かされましたけど。

— 益 田 征 哉 —

僕は、大学に入って何か今までやったことのない新しいことをしようと考えていました。そこで飛翔の話を知り、これをやってみようと思い参加してみました。取材や編集は楽しなかったけど、それなりに楽しかったです。

丸山章仁

初めて記者のような仕事をして、ひとつひとつの仕事に責任をもつことだったりとか、社会におけるマナーなどを学びました。文章をつくっていくことがこんなに大変だとは思いませんでした。自分の知らない世界に少し踏み出すことができました。

密山聖夏

実は編集作業自体には元々そこまで興味はなく、面白そうだからという軽い気持ちで参加しました。しかし実際の編集作業は大変で、本当にやる気がないという物は作れないと感じました。私用で忙しく編集作業に参加できない時も多く周りの人には迷惑をかけたが、本当にいい経験ができたと思います。

宮尾祐子

《教員・事務の方々》

前号の少ないスタッフとは打って変わって、大人数での編集となりました。その分、小回りが利かなくなったかもしれません。たくさんの人で共同作業するときは、まずは時間を守ること。タイミングを逃したらどんなに良い仕事でも評価が下がります。この経験をぜひ次回に生かしてください。

多くの方が編集委員として残ることを期待しています。

入野 宏

今年は一年生が多く編集に入ってくれたとお聞きし、積極的に所属する学部の活動にかかわって、様々な情報を得たり発信したりしようという学生さんが増えたことを、とても喜ばしく思っています。特集をはじめ取材が多く大変だったと思いますが、色々な人にとって話を聞く機会を持つことは、良い経験になったのではないのでしょうか。これからはますますの活躍を期待しています。

城戸光世

今年は東日本大震災でたいへんな被害がありました。直接被害を受けることはありませんでしたが、他方面にその影響が明らかになりつつあります。今年は私達の生き方そのものを問われる転換期かもしれません。「飛翔80号」を発刊できることに感謝しています。編集委員の皆さんの頑張りが垣間見える楽しい「飛翔80号」が出来上がりました。

— 木 田 恵 子 —

編集委員の皆さん、特に2年生がいないなかで、3年生の皆さん取りまとめ等お疲れ様でした。私は8月1日付けの人事異動で「飛翔」の担当になったため、今号の編集にほとんど関わる事がなかったのですが、次号の「飛翔81号」作製の際には、微力ながら事務として出来る限りの協力をしていきたいと思えます。

— 佐々木 浩 —

